

内科 小児科 漢方
産科 婦人科
浮田医院
だより



第 78 号
医療法人 せいらぎ会
発行所：浮田医院
〒520-1214 滋賀県高島市安曇川町末広3丁目28
TEL 0740-32-3751
FAX 0740-32-3795
ホームページ: <http://www.ukita.gr.jp>
e-mail: kanpou@ukita.gr.jp
発行日：2008年9月5日(金)
発行者：浮田 徹也



漢方薬のよさ(78) 不妊症Ⅲ

萩は秋の七草の一つで、蝶々のようなピンク色や白の花を咲かせ、松尾芭蕉などの句にもよく登場します。芭蕉五〇歳の句「白露をこぼさぬ萩のうねりかな」は、かすかに吹く秋風の中で、萩のしなやかにしかもゆったりとうねるさまが繊細に描き出されています。このような落着いた雰囲気の中で、ゆつくりと過ぎ行く時間を楽しみたいものです。では、萩を観照できると薦めスポットをご紹介します。長浜の神照寺、京都の梨木神社、常林寺、豊中の東光寺、奈良の唐招提寺、秋篠寺・・・。

また、秋のお彼岸に食べる「おはぎ餅」「おはぎ」は、秋の萩にちなんで萩餅から、春のお彼岸に食べる「はた餅」は春の花の「牡丹」にちなんで牡丹餅からつけられました。

一〇月は、大阪で日本東洋医学



神照寺 長浜市



丹波康頼

会関西支部総会に出席し、皆と積極的に討論する予定です。
不妊症Ⅲのお話です。

せせらぎ三十九号、五十三号の続きです。不妊症とは、通常の性生活で、二年以内に妊娠しない状態です。女性の場合、卵管、排卵、子宮、頸管、内科疾患、不安感など

が原因で、その原因を明らかにするには三ヶ月程度の診察が必要です。そして、排卵誘発、卵胞成熟促進、ホルモン療法、卵胞モニタリング、性交日指導、AIH、子宮内膜症や感染症などの治療を実施します。また、卵管通過障害、骨盤内癒着が疑われる場合、腹腔鏡による診断と治療、粘膜下子宮筋腫、子宮腔癒着、子宮内膜ポリープ、子宮奇形などには、子宮鏡が有用です。子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫などでは、MRIも利用して診断します。男性の場合、精液や感染症の検査(当院で検査)をして、造精機能障害(閉塞性無精子症、精索静脈瘤)や感染症の診断をします。重症ならば男性不妊外来を紹介します。当院は、漢方薬を中心の治療をしています。西洋医学的な治療を併用することもあります。

三十二歳女性、一五六cm、五十kg、**不妊症**(体外受精三回)顔や手足のむくみ、下肢の冷え、便秘を訴えて来院。顔と手足はむくみ、血色不良。腹は弾力性に欠け、胸脇苦満、心下痞硬、上腹部腹直筋緊張、両側臍傍抵抗と圧痛、下腹





部は膨満して軟らかい。脈は沈、細、弦。舌は淡紅色、乾白苔。そこで、柴胡、黄芩、人參、半夏、大棗、生薑、甘草、桂枝、芍藥、當歸、白朮、沢瀉、茯苓、牡丹皮、桃仁、大黃を処方。三ヶ月後、浮腫、便秘、冷えが改善。一年後妊娠。妊娠中は當歸芍藥散を処方。三三〇〇g 女児を分娩。その後、前回と同じ漢方薬を服薬して妊娠。現在、第二子を妊娠中で、當歸芍藥散を服薬中。

二十九歳女性、一五五cm、五十一kg、夏ばて、疲労倦怠感、食欲不振、月経不順、めまい、肩こり、冷房の中では下痢傾向にて、八月中旬来院。血色悪く、腹部は軟らかい、胸脇苦満（軽度）、心下痞、臍上悸、両側臍傍抵抗と圧痛（軽度）。脈は沈、細、遅。舌は、淡紅色、薄白苔、乾燥、舌下靜脈怒張。そこで、補中益氣湯、當歸芍藥散、食欲不振、下痢傾向などが改善。漢方薬を服用すると調子がよいと言われたので、更に一ヶ月分を処方して廃薬。

五五歳女性、一五八cm、五十八kg、更年期障害、イライラ、不安感、



〔院長〕

発汗、のぼせにて来院。顔は紅潮。腹部の弾力性中等度、胸脇苦満、心下痞硬、臍上悸、両側臍傍抵抗、圧痛を認めた。脈は浮、弦。舌は、鮮紅色、乾燥、黄苔、舌下靜脈怒張。そこで、女神散を処方。一ヶ月後、ニコニコして来院。一年後の現在も服薬中。

四十七歳女性一五三cm、五十三kg、逆流性食道炎、ゲップ、胸焼け、頻尿、不眠を訴えて来院。顔色紅潮。お腹は硬く、胸脇苦満、心下痞硬、下腹部膨満、腹鳴（お腹がゴロゴロ口鳴る）。脈は浮細数。そこで、柴胡桂枝湯（朝）、茯苓飲（昼）、大建中湯（夕）を処方。食後一時間横にならないうよう指示。一ヶ月後より次第に症状が改善し始め、三ヶ月後には時に胸焼け程度になった。三年後の現在も服薬中。

次回は、漢方の流派Ⅲです。



夏ばて

もともと、胃腸（脾）の弱い方、イライラする方、上半身に比べ下半身の弱い方。暑さや湿気や冷房で、食欲、発汗、排尿、排便が不調になり、疲れ、だるさ、むくみ、意欲低下、不眠、微熱の続く方、漢方薬をお試し下さい。体のだるさ、食欲不振、むくみなどの症状が取れてきます。その他の身体症状も改善し体力も強化されます。



更年期障害

女性ホルモンが不足し始めると、それまでと違い、筋肉、血管、関節、骨などの弾力性が低下してきます。心も体も硬くなり、人との係りや環境に敏感になってきます。生活の不摂生（寝不足、過食、過労、過度の性生活など）、慢性疾患、過度の情動などに影響を受けやすい時期です。当院は漢方薬を中心の治療をしています。



逆流食道炎

食道へ胃酸が逆流することで起る食道の炎症です。主な症状は「むねやけ」で、食事の欧米化による肉や脂肪の摂り過ぎが原因のひとつです。また、高齢者の場合、背骨が曲がり腹部が圧迫されたり、下部食道括約筋機能が低下したり、肥満の場合、胃酸が増えることも原因になります。胃酸分泌抑制薬、胃粘膜保護薬や心と体の不調を改善する働きのある漢方薬の治療があります。



当院の漢方治療



剤型

- ・エキス漢方薬：錠剤**タイプ**の漢方薬と顆粒**タイプ**の漢方薬があります。
- ・漢方煎じ薬：良質の生薬を組み合わせた漢方薬。**40～60分**煮て作ります。
当院の**顆粒タイプ**の漢方薬は、胃になじみやすい反面、湿気に弱いので、乾燥剤の入った容器に入れ、**しっかりと蓋**をして下さい。それでも固まる場合、**冷蔵庫(冷凍庫)**で保管して下さい。
漢方薬が固まりやすい場合、当院の**漢方薬専用容器**(無料)をご利用下さい。

適応症

- 便秘、頭痛、肩こり、腰痛、食欲不振、疲れ、冷え、むくみ、痛み、痺れ、動悸、めまい、ほてり、発熱、かゆみ、排尿障害・・・などすべての症状。
- ・漢方薬のよく効く疾患
アトピー性皮膚炎、更年期障害、便秘、腰痛、肩こり、子宮内膜症、子宮筋腫、生理痛、冷え性、不妊症、低血圧、めまい、頭痛、下痢、動悸、過敏性大腸、慢性疲労、風邪、肥満、夏ばて、慢性肝炎、肝硬変、慢性胃炎、慢性膀胱炎、慢性胆嚢炎、胆石、胃十二指腸潰瘍、痛風、慢性膀胱炎、血尿、前立腺肥大、蕁麻疹、接触性皮膚炎、にきび、慢性中耳炎、慢性扁桃腺炎、慢性副鼻腔炎、口内炎、口腔乾燥、虚弱児、切迫流産、妊娠中毒症、産後回復不全、乳腺炎、乳汁分泌不全、乳腺症、上下肢浮腫、膝関節症、神経痛、帯状疱疹後神経痛、下肢静脈瘤、クーラー病・・・
 - ・漢方薬と西洋薬を併用することの多い疾患
高血圧、高脂血症、高コレステロール血症、アレルギー性鼻炎、不眠症、自律神経失調症、うつ病、骨粗鬆症、糖尿病、慢性関節リウマチ、痔、肝硬変、喘息、腎炎、甲状腺疾患、夜尿症、脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、抗癌剤使用後倦怠感、抗癌剤使用時副作用・・・

エキス漢方薬と漢方煎じ薬

- ・軽症 ・ 中程度の病氣：漢方製剤（顆粒あるいは錠剤）を組み合わせで治療。
- ・重症の病氣、エキス剤が無効：漢方煎じ薬で治療。

女性の方、男性の方、お子様、高齢の方、ご相談下さい。

問診、望診(舌診)、聞診、切診(腹診と脈診)の東洋医学的診察法(四診)や検査(超音波、血液、便、尿、痰、膣分泌物、心電図、骨量測定・・・)などを利用して、漢方薬を決めます。

骨量測定(4～6ヶ月ごと)

1分で測定(極少量のX線吸収を利用)。結果は、直ぐにお渡しします。骨破壊度の検査(尿)も実施しています。

予約ー漢方外来

土曜日の午後、予約ー漢方外来があります。
(予約制、2回/月)。午後2時～2時20分、2時20分～40分、2時40分～3時、3時～3時20分、3時20分～3時40分、3時40分～4時。日程は掲示板やホームページでご確認ください。(電話予約可)

アトピー軟膏 健康食品

漢方薬(生薬)のみで作られた軟膏です。

- ・紫雲膏 ・ 太乙膏 ・ アガリクス
- ・メシマコブ・靈芝 ・ AHCC ・ サメ軟骨

漢方入浴剤

- ・美芳湯：冷え症、湿疹、あせも、にきび・・・
- ・昇竜湯：腰痛、肩こり、神経痛、疲労回復・・・
- ・アトピーの方の漢方入浴剤もお作りします。

健康保険証の確認

保険証は毎月確認することになっています。
保険が使えなくなると困りますから、保険証の変更は、早急に受付に連絡して下さい。

在宅療養の支援とは

患者さんあるいはその家族の人と相談のうえ、その家族を訪問し、**計画的に診療と治療**を行います。
往診と違い、**定期的に(月に2～12回)訪問診療**を行い、患者さんの健康を管理します。
在宅療養の支援についてお気軽にご相談下さい。

スーパーライザー(神経照射)

赤い温かい光(近赤外線)で血行をよくし、腰痛、肩こり、五十肩、膝の痛み、ムチウチ、捻挫、花粉症、アトピー性皮膚炎、ストレス・・・などの治療に利用しています。

皮内針、針管付き鍼

皮内針の長さは1～2mm、針管付き鍼の長さは30mm、いずれの鍼も刺す時の痛みはありません。肩こり、腰痛、膝関節痛、足の痛、筋肉痛、頭痛・・・の治療に適しています。

処置診(処置、検査、点滴、鍼、スーパーライザー)

診察券を入れ**受診者名簿**に、**氏名**を書き、**処置**の欄にチェックして下さい。

外 来 診 療 時 間

	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～正午	○	○	○	○	○	○	—
正午～午後0時30分	—	—	産後健診(予約可)	—	産後健診(予約可)	—	—
午後2:00～午後3:30	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	予約-漢方外来 (月2回)	—
午後2:00～午後4:00	在宅訪問診療	(手術)	在宅訪問診療	(手術)	在宅訪問診療	—	—
午後5:30～午後7:30	○	—	○	—	○	—	—

◇漢方外来(月～土):内科、小児科、皮膚科、産婦人科、整形外科、耳鼻科、眼科など全科の漢方薬による治療。

◇予約-漢方外来(2回/月 土曜日):午後2時～2時20分、2時20分～2時40分、2時40分～3時、3時～3時20分、3時20分～3時40分、3時40分～4時
電話予約可(日程はホームページ、掲示板参照)

◇更年期外来(月～土曜日):更年期の方、思春期の方(女性、男性 どなたでもお越し下さい)

◇不妊 外来(月～土曜日):赤ちゃんの欲しい方(ご夫婦でもお越しになれます)

◇妊婦 外来(月～土曜日):妊婦健診、妊娠中の方

◇産後 健診(水、金曜日)(有料):正午～午後0時30分 電話予約可 赤ちゃん健診(1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月)
産後健診

◇母乳 相談(月～金曜日)(有料):午後2時～2時30分、2時30分～3時、3時～3時30分 乳房マッサージ。
電話予約可

前期と中期-母親教室

日時:平成20年9月13日、10月4日、11月8日の
各土曜日

対象:妊娠7ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

場所: **当院別棟 多目的ルーム** 申込方法: **申込ノート**でご予約をお願いします。*ご主人様もお気軽にご参加下さい。
立会い分娩ご希望の方は 特にご参加をお勧めします。(申し込みノートにお名前記入をお願いします)

後 期 - 母 親 教 室

日時:平成20年9月24日(水)、10月15日(水)
10月25日(土)、11月5日(水)

対象:妊娠8～10ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

母親教室のお知らせ

母親教室では、“母と子のてびき”にそって、お話をすすめています。参加時には母子手帳とともに、忘れずにお持ち下さい。(“母と子のてびき”は、分娩予約時に受付でお渡ししています。)ご主人と一緒に参加される場合は、必ず**申し込みノート**に予約の記入をお願いいたします。



医 心 方

わが国の現存する最古の医書で、丹波康頼の編集で永観2年(984)に完成後、朝廷に献上されました。

全30巻からなり、諸病源候論や千金方に準じた分類で隋唐の医書(204部)を引用しています。しかし、実用主義の日本に合うように、陰陽五行説、脈論などの観念的、思弁的な部分は多く略されています。

原本の医書は既に散逸したものが多く、隋唐医学の研究には大切な文献です。医師の倫理、医学総論、各種疾患に対する療法、薬物、養生、房中(性生活)などが書かれています。



分娩予約

妊娠30週までに受付で予約して下さい。ご予約には、**分娩予約カードと予約金10万円**が必要です。予約された方には、**母と子のてびき**をお渡しします。

漢方のお茶

〔和中飲(わちゅういん)加減〕9月のお茶

夏の暑さで消耗した体力を回復するためのお茶です。「中を和するお茶」です。「中」とは「胃腸」のことで、胃腸を調え正気を養い夏ばて、疲れを癒します。妊娠中の方も飲みください。

パソコンホームページ (<http://www.ukita.gr.jp>)

トップページ(お知らせの欄、診療日程カレンダー)
産婦人科のページ(入院、食事、各種教室、指導)
漢方治療のページ(外来、漢方治療の範囲)
老人医療のページ(在宅療養の支援)
健康のページ(健診、ブライダルチェック、予防接種)
当院の施設案内、当院への交通(車、JR)

正常分娩の入院日数

正常分娩の場合入院日を含めて入院期間は6日間です。初産婦の方、経産婦の方も同じ入院日数です。分娩希望の方はすべて受け付けています。

里帰り出産を予定されている方へ

当院は里帰り出産を受付けています。妊娠24週ころ(母体と赤ちゃんの状態をチェックします)に1度診察においてください。当院での妊婦健診は妊娠34週から受けてください。

赤ちゃん健診

1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月健診をしています。
日時:毎週水、金曜日 正午～午後0時30分(有料)

産科医療補償制度

分娩により重度の脳性麻痺となった児及びその家族の経済的負担を補償し、原因分析と再発防止策を講ずるための制度。当院でお産される方に、10月より登録証を発行する予定です(妊娠5ヶ月ころ)。詳細は受付でお聞きください。